

建設・不動産向けに100年間超長期保存電子契約サービス開始

電子契約サービス「リーテックデジタル契約」を展開するリーテックス(東京都千代田区、小倉隆志社長)は、建設会社や不動産会社向けに、100年間の超長期保存を対象とする新しい電子契約サービスを開始した。電子契約にはファイルの添付が可能。エクセルや設計図の

リーテックス

3DCADファイル、BIMファミンプランの利用者が対象。ファイルなど全てのファイル形式 データ容量が1テラByteを超えるを、容量の上限なく保存できる。と、容量に応じて追加料金が必100年間保存の超長期電子契約は国内初という。

「100年電子契約」は、3債権制度を利用しており、制度的に保存が保証されている。建設契約の電子化により印紙税がゼロになる経済的メリットもある。

る。

ゼネコンが施主と締結するビルなどの建設請負契約は、設計図や見積書など付属資料が合計で数百ページと非常に多く、ビルの存続に合わせて50年以上というような契約の保存が求められる。契約金額が10億円以上になると、印紙税が数十万円かかっている。こうした課題の解決につなげる。